

だい ぶ か だい 第 5 部 課題

だい かい 第 15 回

まい にち に ゆう り よ く 毎日パソコン入力コンクール ぜん こ く た い かい 全国大会

か だい 【課題】

だい ぶ わ ぶ ん ちゅう が く せい
第 5 部 和文 A 中学生

う ちゅう かい は つ に ほ ん か だい な ま ち ゆ う け い じ ゆ ぎ よ う
宇宙開発、日本の課題 / 生中継でテレビ授業

せい げ ん じ か ん ぶん
制限時間 5 分

とう じ つ ちゅう じ こ う 【コンクール当日の注意事項】

1. 競技委員の指示があるまで、この用紙に手を触れないでください。
2. 競技委員の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えま
す。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、平成27年2月15日付毎日新聞 教えて!デスク「宇宙開発、日本の課題」、
まい に ち し ん ぶん し ゃ げ つ かん ね ん が つ こ う ね ね が つ こ う な ま ち ゆ う け い じ ゆ ぎ よ う い ん よ う
毎日新聞社 月刊Newsがわかる 2013年2月号「生中継でテレビ授業」より引用
しました。(文字数1,730字程度)

か だい ぶん し ゃ う き ん そ く も じ <課題文章の禁則文字について>

まい に ち に ゆ う り よ く い ん よ う ぶん し ゃ う げ ん ぶん と こ
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいる
ため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおり
に 入 力 す る と せい かい
に入力すると正解になります。

し ゆ さい
主催

まい に ち し ん ぶん し ゃ
毎日新聞社

い っ ぱ ん し ゃ だ ん ほう じん
一般社団法人

に ほ ん の う り よ く けん て い い い かい
日本パソコン能力検定委員会

こう え ん
後援


そう む し ゃ う
総務省


もん ぶ か が く し ゃ う
文部科学省


こう せい ろ う どう し ゃ う
厚生労働省


け い ざ い さ ん ぎ よ う し ゃ う
経済産業省ほか


ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく
1行35字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所では改行 (Enter) してください。


う ちゅう かい はつ に ほん か だい
宇宙開発、日本の課題 


日本で国産初のロケットの発射実験が成功したのは60年前のことです。以
来、日本は世界の国々と競い合いながら、宇宙に迫る努力を続けてきました。
これから先、宇宙ではどんなことが課題になり、日本は何を目指すのでしょ
うか。1月にできた「宇宙基本計画」から考えてみます。 


新しい宇宙基本計画は、「宇宙ごみ」への対策など、宇宙を安全に利用する
ための取り組みに力を入れるべきだと強調しています。 

かつては、米国とロシアのロケット技術が抜きんでいました。でも、最近
は中国やインドなど高い技術力を持つ国が増えていますし、米国には宇宙船を
独自に開発して宇宙旅行をしようという会社まであります。宇宙が身近になっ
た結果、これまでに打ち上げられた人工衛星は6000基以上あり、今や地球
の周りは人工衛星で大混雑しています。 

2009年、使われなくなったロシアの衛星に米国の衛星が衝突する事故が
起きてしまいました。それに、人工衛星を打ち上げたロケットや人工衛星の破
片などの「宇宙ごみ」も放っておくわけにはいきません。宇宙ごみは2万個以上
もあるといわれ、秒速7~8キロという猛スピードで地球の周りを飛び交っ
ているのです。 

人工衛星の重要性は増すばかりです。地球のさまざまなデータを観測して地
上に送ってきますし、人には危なくて近づけない火山の噴火、洪水などの様子
も分かります。飛行機や船の安全な航行、地上での通信にも役立っています。
ですから人工衛星が衝突事故に巻き込まれたり、宇宙ごみとぶつかったりした
ら大変です。そこで、レーダーや大型望遠鏡などを使って宇宙を見張るシステ
ムを充実させることが計画されています。それに、各国が宇宙を利用するにあ
たっての詳しいルールも必要で、日本はルール作りの話し合いをリードしたい
と考えています。 

宇宙基本計画では、昨年末に小惑星探査機「はやぶさ2」を打ち上げたよう
な、宇宙の秘密を探る最先端の挑戦を今後も続けることにしていて、これから
10年間で「3回挑戦する」と表明しています。 

はやぶさ2のプロジェクトでは、地球から遠く離れた場所にある小惑星まで
探査機を飛ばし、惑星がどんな物質でできているかを調べることにしています
。その成果に世界中が期待しています。 

ただ、はやぶさ2に続く「挑戦」がどんなものになるのかは、まだ具体的に
決まっていません。米国は、2030年代を目標に火星に宇宙飛行士を派遣す

ることを目指して、世界に協力を呼び掛けています。無人探査機の月面着陸に成功している中国は22年に独自の宇宙ステーションを完成させる予定です。韓国も月面探査を目指しています。日本も世界が驚く、夢のある挑戦を打ち出したいものです。◀

また00年から宇宙飛行士が滞在している国際宇宙ステーションを、いつまで、どんなふうに運営していくのかも注目されています。ISSは地球の約400キロ上空に建設された巨大な実験施設で、各国から選ばれた宇宙飛行士が実験や天体観測などを行っています。多くの国が運営に協力していることから、国際協力と平和のシンボルと言えます。◀
毎日新聞 2015年2月15日◀

◀
生中継でテレビ授業◀

過疎地や離島の高校でテレビ中継による「遠隔授業」が2015年度にも始まりそうだ。教育の専門家らによる文部科学省の会議が12月8日、導入を認める報告書をまとめた。◀

生徒の数が少なくても専門の教員は必要だ。だが教員の数を確保できず、科目によっては専門外を教えることもある。このためテレビ会議システムを使うことにした。◀

送信側から受信側へ、映像や音声が届く。企業が離れた場所をテレビでつなぎ、会議を開くのと同じだ。◀

対象は通学による教育が前提の全日制と定時制の高校だ。教員と生徒が直接向き合う授業が原則で、これまでは認めていなかった。◀

両者のふれあいを重んじ、遠隔授業は生中継とする。やり取りできるので、生徒の質問に先生が答えることもある。◀

受信する高校でも、授業には教員が立ち会う。高校卒業に必要な74単位のうち36単位を上限とする。◀

大学教員の授業を受けることや海外との交信も可能になる。教育の幅が広がることも期待される。◀

遠隔授業は通信高校では採用されている。